

英語 北海道大学 総合入試【理系】、総合入試【文系】、学部入試【全学部】

<全体分析>

試験時間

90分

解答形式

記述・客観併用

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴

例年通りの読解総合2題、英語表現1題、要約文完成1題の出題であった。読解問題は内容把握に重点が置かれた出題となっている。表現問題は英語の文章を読んだ上で英文を書くという独自の出題形式が継続されている。さらに会話文の要約文を完成させる問題も独自の出題形式が継続されている。

その他トピックス

- ・英文の総語数は昨年より90語程度減少した。
- ・大問1で昨年出題された「正しくないものを選ぶ、当てはまらないものを選ぶ」という形式は出題されなかった。
- ・大問1・2では、例年出題されている「内容や理由を説明する問題」が姿を消し、大問ごとに2題ずつ下線部訳が出題された。
- ・大問3のABは単純な形の書き換えではなく、内容を読み替える必要があった。
- ・大問4は会話文を参照することなく、要約文だけでもすべての空欄を埋めることができたであろう。
- ・3/4に大学のHPに1問2について問題文に誤記があり正答が選べない可能性から受験者全員を正解として扱う旨発表されました。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	読解総合	ラップ音楽の誕生と変遷 (731語)	1. 下線部を日本語に訳す。 2. 空欄に入る最も適切な語句を選ぶ。 3. 下線部が意味する内容として最も適切なものを選ぶ。 4. 下線部を This の内容を明示して日本語に訳す。 5. 空欄に入る最も適切な語を選ぶ。 6. 本文の内容と <u>一致するもの</u> を2つ選ぶ。	やや難 やや易 標準 標準 標準 標準
2	読解総合	対照的な食事から学んだ共通点 (666語)	1. 下線部を日本語に訳す。 2. 下線部が意味する内容として最も適切なものを選ぶ。 3. 空欄に入る最も適切な表現を選ぶ。 4. 2つの空欄に入る語・語句の適切な組み合わせを選ぶ。 5. 下線部を This の内容を明示して日本語に訳す。 6. 本文の内容と <u>一致しないもの</u> を2つ選ぶ。	標準 標準 やや易 やや易 やや難 標準
3	英語表現	「麺をすする文化」をめぐって (407語)	A 本文の内容に合うように文を完成する。 B 本文の内容に合うように文を完成する。 C 食事の際に外国人の隣で麺をすすることは問題と思うかどうか。(70語から100語)	やや難 やや難 標準
4	要約文の空欄補充	電気自動車の普及の是非 会話文(660語) 要約文(415語)	会話文の要約文を完成する。 (空欄12カ所、選択肢24)	標準

注：難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・北大の読解問題は、毎年設問形式に若干の変化は見られるものの、精読力と速読力の両方を求めている点是不変である。したがって、正確に構造を把握し、指示語の内容を丹念に捉え、意味がはっきりしない表現や内容を文脈から判断する読み方と、論旨の流れを速やかに捉える読み方の両方の完成をめざす必要がある。英文の分量は年によってかなりの差があるので、多い方に合わせて 800 語程度の英文は一気に読み通すことができるようにしておきたい。また時間内に解き終わるためには、内容一致文・不一致文の選択肢と本文を速やかに対応させる訓練もする必要があるだろう。
- ・英語表現問題の Question A、B に関しては、設問に答えるための必要な情報をすばやく探し出し、下線部の前後の英文から書くべき形と内容を判断する。対応箇所をそのまま書くことはできないので、基本的な書き換えのパターンを身につけると同時に、表現を読み替える訓練も必要である。また、Question C に関しては、あるテーマに関して、自分の考えの根拠を分かりやすく表現していく練習を積む必要がある。しかし、そのような実戦的訓練をする前に、基本的な英文を正確に書けるようにしておくのは言うまでもない。
- ・要約文完成問題は「空欄に入る品詞」を判断し「意味」を類推することで、要約文だけでもある程度解答できるようにしておく必要がある。しかし、対話文をある程度参照した方が判断しやすい場合もあるので、「利用するかどうか」を瞬時に判断する必要がある。さらにコロケーションの知識がかなり重要になることが多いので、ふだん英文を読む際に単語や語句の使われ方に注意を払っていることが正答を判断する上で重要になる。さらに文と文のつながりを意識した読み方をすることで意味を類推する力が養われるであろう。